

〔 横浜市陶芸センター 〕  
令和 5 年度業務計画及び収支予算  
〔 シンリュウ株式会社 〕

- ※ 文中の事業欄において、  
●：主催事業 ○：共催事業  
を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、  
□：定量的指標 ■：定性的指標  
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市陶芸センター
所 在 地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構 造 ・ 規 模	木造平屋建て及び登り窯 1 棟(別棟)
敷 地 ・ 延 床 面 積	延床面積 396 m <sup>2</sup> 登り窯延床面積 60 m <sup>2</sup>
開 館 日	平成 5 年 8 月

2 指定管理者

法 人 名	シンリュウ 株式会社
所 在 地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代 表 者	小澤 忠
設 立 年 月 日	平成 2 年 4 月 26 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	平成 18 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜市陶芸センターの役割は陶芸を通して、あらゆる世代が活躍できる魅力ある町づくりに寄与していくことです。未来に向けた新しい陶芸センターのあり方として、陶芸文化発信・拠点となり地域の活性化につなげる役割を担うため、市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ることです。安定的管理運営を前提とし、これまでの運営経験を活かしながら様々なニーズに合ったきめ細かな対応を行います。そのために次の 4 つの方針で横浜市陶芸センターの管理運営に取り組めます。

1. 作陶講座を常に充実・向上させる

限りあるスペースを最大限活用しながら、ニーズに合わせた講座開催を行います。講座ごとに改善点を見直し、より多くの方に陶芸に親しむ機会を提供します。初めて陶芸を体験する方に

に向けた講座、より本格的な陶芸を学びたい方に向けた専門講座、全国陶芸産地の粘土・釉薬・焼成方法を取り入れた全国のやきものを楽しむ講座等、システム作りに努め、指定期間を通じて、常に講座内容の充実・向上を目指します。

## 2. 陶芸知識の基地化、次世代育成の支援を推進する

陶芸文化の拠点として、SNS を活用しながら解かりやすい陶芸知識の発信や、陶芸ライブラリーの充実（陶芸図書、デジタルアーカイブ）、子ども、陶芸愛好家・指導者・作家等の支援、親子陶芸教室、要望に応じた団体教室の開催が考えられます。また、招待作家講座（現在活躍している陶芸家を招いた講座）を開催し、陶芸の新しい時流を感じて頂き、施設スタッフも含めた施設の活性化を推進します。

## 3. 地域社会との連携に取り組む

陶芸祭や共催企画により、隣接している三溪園や本牧市民公園、地域の商店街と連携し、地域の活性化に努めます。また、近年の増加している災害に対応するため、緊急時の防災対策についても近隣施設、地域と連携しながら、安全・安心して作陶できる環境に取り組めます。

## 4. 環境に優しい施設を目指す

自然環境に配慮した取組みを行います。不良在庫を減らすための期間限定粘土・釉薬の予約販売の促進や、酸化金属を含む釉薬を下水に流さない取組み、大量の産業廃棄物となる使用済粘土のリサイクル等に取り組めます。自然環境に配慮した施設運営を目指します。

# （2）令和5年度の業務の方針

## ア 全体について

令和5年度の業務方針は、令和4年度に取り組んだ様々な事業運営の改善点を検討し、さらに充実した事業運営に取り組めます。また、昨年度より引き続き、陶芸人口裾野拡大と作陶活動拠点施設として、あらゆる世代ニーズに対応するため様々な講座を開催し、市民が陶芸に親しむ機会を提供します。

陶芸祭等により近隣施設や地域団体と連携し、地域に根差した施設を目指します。知名度向上に努め、陶芸祭と合わせた新たな『全国公募横浜陶芸展』を企画検討します。

多岐に渡る講座や事業運営を効率的に行えるように、業務スケジュールの改善、システム化を推進します。さらにコロナの緩和状況に合わせた柔軟な施設運営に取り組んでいきます。

## イ 使命1 陶芸に親しむ機会を提供する

初心者（子供）から経験者、あらゆる人々に広く対応した様々なテーマの講座を実施することで、市民に親しまれる地域の施設となることを目指します。

## ウ 使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する

全国の陶芸産地の粘土・釉薬・焼成方法を新たに取り入れることで、市民の主体的な作陶活動の

支援を進めます。

エ 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

陶芸祭、団体教室や出張教室を積極的に開催する事で、地域の様々な施設・団体と連携し、地域の作陶活動拠点としてのネットワーク構築に寄与します。

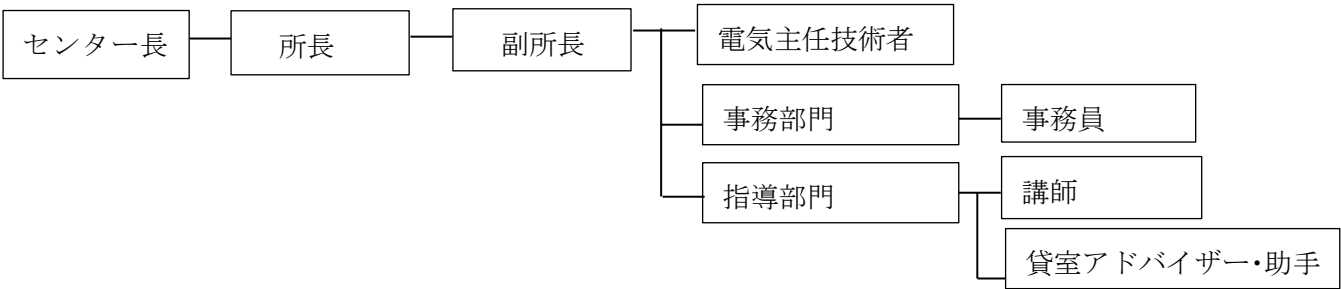
オ 使命4 持続可能性を高める施設運営を行う

令和4年度より引き続き、持続可能性を高める取組みとして、①日常的な施設建物・設備の点検  
②環境に優しい施設維持管理③効率的な運営の努力を行い、施設の安全・快適な維持管理と安定的な施設運営を目指します。

4 運営組織の構造、人員配置

項目	人数	備考
センター長	1人	全体総括責任者
所長	1人	事業・運営・管理・個人情報管理・全業務現場責任者
副所長	1人	講座運営企画・施設維持管理・備品管理責任者 緊急時所長代行・緊急時講師代行 防火責任者・広報・講師事務総括（事務、指導部門との調整）
事務員	2人	受付業務、ローテーション勤務
講師	11人	教室の指導、一部アドバイザー・助手兼務    ローテーション勤務
貸室アドバイザー・助手	6人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
電気主任技術者	1人	電気設備点検・維持・管理

<組織図>



事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務体制とし、講座運営に支障のないようにする。職務分担の徹底により効率的な業務遂行を行う。事務部門、指導部門との円滑な連携を図るため、講師も兼任できる技量をもつ社員を1名配置します。

5 令和5年度の業務の取組

(1) 文化事業

令和5年度は①、②、③、④を重点的に取組みます。

- ① 親子陶芸教室、団体教室等、次世代育成に関する講座を拡充します。
- ② 市内の公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等に積極的に取組み、陶芸知識発信に

よる基地化を進めます。

③ 陶芸祭の開催と、『全国公募横浜陶芸展』を企画検討し、知名度向上に努めます。

④ コロナの緩和状況に合わせた『作陶と点前体験』『陶芸文化鑑賞講座』『招待作家講座』の講座を企画検討します。近隣施設や外部講師（陶芸作家）と連携し、陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進します。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

## （２）施設運営

令和５年度は①～⑥を重点的に取組めます。

① 貸室及び自主事業の利用者数について、年間 12,174 人を目指します。

② 適切な施設運営のため年間 357 日の開館とし、利用者の便宜を図り利用促進に努めます。

③ 利用率増加のため、新規釉薬・粘土の導入に取組めます。

④ 利用者アンケートを活用した利用者サービス向上と利用を促進します。

⑤ 限りあるスペースを最大限活用し、施設スペースの有効利用に取組めます。

⑥ 組織的な施設運営、効率的業務遂行、適切かつ効果的な勤務体制の確立に努めます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

## （３）施設管理

令和５年度は①～③を重点的に取組めます。

① 施設、設備等の適切な管理のため、修繕が必要と思われる箇所を常に洗い出し、出来る限り自前修繕で対応しながら高額修繕に備え、事業運営に支障が出ないように努めます。

② 陶芸センター周辺の環境を常に意識し、建物及び登り窯の管理に当たります。

③ 汚泥量調査を実施し、適切な汚泥管理、環境維持に努めます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

## （４）収支

令和５年度は安定的な運営を行うため、魅力ある講座の開催、効率的な業務システムの構築、日常点検による小破修繕、在庫管理の徹底を重点的に取組めます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

## （５）各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和５年度は日報、月間事業報告書、業務計画書、業務報告書を作成・管理するとともに、自己評価を行い、業務改善に取組めます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

## （６）その他

令和５年度は法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに、横浜市との連絡調整を密にし、円滑な業務遂行に取組めます。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表に記載します。

# 6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

## （１）使命１ 陶芸に親しむ機会を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項 目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数			11000 人				13000 人	
2	次世代育成を目的とした事業の実施回数			5 回				7 回	
3	各事業のターゲット設定（初心者、中級者等）及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割合（アンケート集計）			60%				80%	
4	参加者の満足度（アンケート調査）			70%				80%	
5 ★	体験型教室	気楽に一日陶芸体験（手びねり）		7 回/年				7 回/年	
				84 人				84 人	
		気楽に一日陶芸体験（電動ロクロ）		7 回/年				7 回/年	
				84 人				84 人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験（手びねり）		5 回/年				5 回/年	
				60 人				60 人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験（電動ロクロ）		5 回/年				5 回/年	
				60 人				60 人	
		ゆったり丸一日陶芸体験		7 回/年				7 回/年	
				84 人				84 人	
		夏休み親子陶芸教室		5 回/年				7 回/年	
				100 人				140 人	
6				5 回/年				5 回/年	

★	基礎型教室	陶芸入門 4 日間講座		120 人				120 人	
		陶芸入門 3 日間講座		1 回/年				1 回/年	
				18 人				18 人	
		陶芸入門 2 日間講座		1 回/年				1 回/年	
				12 人				12 人	
7★	自律型教室	自由作陶教室（10 回コース）の開催		4 回/年				4 回/年	
		利用者数		6358 人				6720 人	
		第 2 自由作陶教室（10 回コース）の開催		4 回/年				4 回/年	
		利用者数		328 人				328 人	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の意見聴取及び分析	R 4 実績	
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

幅広い年齢層に広く情報発信（周知）を行い、指標人数達成を目指します。アンケート調査や利用者、指導現場スタッフの声を聞き取り、毎回改善点を分析し、利用者の満足度向上と講座内容の見直しに努めます。

（２） 使命 2 市民の主体的な作陶活動を支援する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項 目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	貸館（貸室） 利用者数			3920 人				4480 人	
2	作陶に関する専門技 能や知識習得につな がる事業の実施回数			17 回				20 回	
3	利用者満足度 （アンケート調査）			70%				80%	
4 ★	追 求 型 講 座	全国やきもの講座			2 回/年			4 回/年	
		利用者数			70 人			140 人	
		還元焼成講座			4 回/年			4 回/年	
		利用者数			300 人			300 人	
		大物焼成講座			12 回/年			12 回/年	
		利用者数			24 人			24 人	
		作陶展			1 回/年			1 回/年	
5 ★	専 門 技 能 習 得 講 座	電動ロクロ水挽き 徹底講座			1 回/年			2 回/年	
		利用者数			24 人			48 人	
		絵 付 け 講 座	上絵付 （3 日間コー ス）		1 回/年			1 回/年	
			利用者数		18 人			18 人	
		染付 （1 日間コー ス）			1 回/年			1 回/年	
			利用者数		6 人			6 人	
		招待作家講座			1 回/年			1 回/年	
		利用者数			14 人			14 人	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績
----	----	-------------

1	利用者の 状況につ いての現 状把握 (利用者 との意見 交換等)	R 4 実績	
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

利用者が継続して陶芸に楽しみ、横浜に居ながら全国のやきものに触れる機会を提供します。陶芸産地の粘土・釉薬を気楽に体験できるように、様々な粘土・釉薬・焼成方法を取り入れた企画を実施し、指標達成を目指します。

(3) 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通 番	項 目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	技術向上、指導力養成、出張教室を実施した回数			2 回				5 回	
2	地域の施設・団体等と共催・連携して実施する事業数			10 事業				15 事業	
3 ★	支 援 型 講 座	指導者研修講座		2 回/年				2 回/年	
		利用者数		48 人				48 人	
		団体教室 (通常プラン)		5 回/年				8 回/年	
		目標利用者数		150 人				240 人	
		団体教室 (オーダープラン)		5 回/年				7 回/年	
		利用者数		150 人				210 人	
		出張教室		1 回/年				3 回/年	
		利用者数		15 人				45 人	



4 ★	共 催 企 画	三溪園共催企画 (作陶展)		1 回/年				1 回/年	
		目標利用者数		30 人				30 人	
		本牧市民公園、 地域商店街との 共催企画		1 回/年				1 回/年	
		楽焼体験教室 (陶芸祭体験)		1 回/年				1 回/年	
		目標利用者数		20 人				20 人	
		手びねり体験教 室 (陶芸祭体 験)		1 回/年				1 回/年	
		目標利用者数		16 人				16 人	
		電動ロクロ体験 教室 (陶芸祭体 験)		1 回/年				1 回/年	
		目標利用者数		16 人				16 人	
		陶芸文化鑑賞講 座 (隔年開催)		1 回/年				1 回/年 隔年開催 R7 実施予定	
		目標利用者数		15 人				15 人	

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通 番	項 目	達成指標と各年度の実績	
1	連 携 し た こ と に よ る 関 係 者 の 意 見 聴 衆 及 び 分 析	R 4 実績	
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命 3 を達成するために重点的に取り組む事項

いつでも気軽に陶芸についての質問・疑問に対応できるように、常時電話・メールでの受付を実施します。支援型講座は夏休み期間に設定し、子供から平日利用が難しい一般の方向けに講座日程設定し、指標達成を目指します。

(4) 使命 4 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項 目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数			0 件				0 件	
2	法定点検等の実施率 100%			100%				100%	
3	修繕予算の執行率 90%以上			90%				90%	
4 ★	日常的な施設建物・設備の点検	施設建物目視点検		毎日				毎日	
		陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理		週 1 回				週 1 回	
5 ★	環境に優しい施設維持管理	粘土・釉薬の再生 (リサイクル)		月 2 回				月 2 回	
		粘土・釉薬を直接下水に流さない		毎日				毎日	
		排水溝・桝掃除		年 2 回				年 2 回	
		登り窯 (レプリカ) の適切な管理		2 ヶ月 1 回				2 ヶ月 1 回	
6 ★	効率的な	早めの計画		週 1 回				週 1 回	

	運営 の努 力	業務マニユ アルの見直しと 改善		年 1 回				年 1 回	
--	---------------	------------------------	--	-------	--	--	--	-------	--

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項 目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使用 やすさ や快適さ についてのヒア リング	R 4 実績	
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	
2	管理運営 費推移の 要因分析	R 4 実績	
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命 4 を達成するために重点的に取り組む事項

施設・設備の毎日の見回り点検による小まめな修繕を行います。定期的な施設の維持管理を確実に実施し、効率的な運営を行うために改善点を分析し、指標達成を目指します。

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 陶芸に親しむ機会を提供する(使命1)	1 体験型教室	気楽に一日陶芸体験(手びねり)	●気楽に一日陶芸体験(手びねり)の開催 □開催数	7回/年			【成果】  【課題】	【評価できる点】  【更なる取組を期待する点】
			□目標利用者数	84人				
		気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)	●気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)の開催 □開催数	7回/年				
			□目標利用者数	84人				
		ゴールデンウィーク陶芸体験(手びねり)	●ゴールデンウィーク陶芸体験(手びねり)の開催 □開催数	5回/年				
			□目標利用者数	60人				
	2 基礎型教室	ゴールデンウィーク陶芸体験(電動ロクロ)	●ゴールデンウィーク陶芸体験(電動ロクロ)の開催 □開催数	5回/年				
			□目標利用者数	60人				
		ゆったり丸一日陶芸体験	●ゆったり丸一日陶芸体験の開催 □開催数	7回/年				
			□目標利用者数	84人				
		夏休み親子陶芸教室	●夏休み親子陶芸教室の開催 □開催数	5回/年				
			□目標利用者数	100人				
	3 自立型教室	陶芸入門4日間講座	●陶芸入門4日間講座の開催 □開催数	5回/年				
			□目標利用者数	120人				
		陶芸入門3日間講座	●陶芸入門3日間講座の開催 □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	18人				
		陶芸入門2日間講座	●陶芸入門2日間講座の開催 □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	12人				
2 市民の主體的な作陶活動を支援する(使命2)	1 追求型講座(貸室、自由作陶教室利用者を対象とした講座)	全国やきもの講座	●全国やきもの講座の開催 □開催数	2回/年			【成果】  【課題】	
			□目標利用者数	70人				
		還元焼成講座	●還元焼成講座の開催 □開催数(日数)	4回/年 (288日)				
			□目標利用者数	300人				
		大物焼成講座	●大物焼成講座の開催 □開催数	12回/年				
			□目標利用者数	24人				
	2 専門技能習得講座(一般を対象に、陶芸の専門技術習得を目指す)	作陶展	●作陶展の開催 □開催数	1回/年				
		電動ロクロ水挽き徹底講座	●電動ロクロ水挽き徹底講座の開催 □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	24人				
			●上絵付(3日間コース) □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	18人				
		絵付講座	●染付(1日間コース) □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	6人				
		招待作家講座	●招待作家講座の開催 □開催数	1回/年				
			□目標利用者数	14人				

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する(使命3)	1 支援型講座	指導者研修講座	●指導者研修講座の開催 □開催数	2回/年			【成果】  【課題】
			□目標利用者数	48人			
		団体教室(通常プラン)	●団体教室(通常プラン)の開催 □開催数	5回/年			
			□目標利用者数	150人			
		団体教室(オーダープラン)	●団体教室(オーダープラン)の開催 □開催数	5回/年			
			□目標利用者数	150人			
		出張教室	●出張教室の開催 □開催数	1回/年			
			□目標利用者数	15人			
	2 共催企画	陶芸祭(作陶展・秋祭り)	○三溪園共催企画(作陶展) □開催数	1回/年			
			□目標利用者数	30人			
			○本校市民公園・地域商店街との共催企画 □開催数	1回/年			
			●楽焼体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年			
			□目標利用者数	20人			
			●手びねり体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年			
			□目標利用者数	16人			
			●電動ロクロ体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年			
			□目標利用者数	16人			
		陶芸文化鑑賞講座	○陶芸文化鑑賞講座の開催	1回/年			
			□目標利用者数	15人			
4 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	1 陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施		■陶芸祭来場者への対応	実施			【成果】  【課題】
			■予約無しでの陶芸体験の実施	実施			
			■バザー・作品展示会での興味の喚起	実施			
	2 障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案		■教室内の動線を確保するため、整理整頓を心がける	実施			
	3 映像による紹介(デジタルアーカイブ)		■陶芸体験教室、親子陶芸教室等の開始までの待ち時間において、解説動画映像を上映する	実施			
			■映像によるロクロ技法や施釉技法、陶芸祭などの紹介	実施			
	4 次世代育成の取組(親子陶芸教室での小学生を対象とした陶芸解説資料の作成)		■小学校低学年と初めて陶芸体験される方を対象に、焼き物に関する解説と資料の配布など、次世代の育成に取り組む	実施			
	5 (指定期間5年間に於いて)新講座、実験的講座の開講		■新講座として、丸1日体験講座、陶芸入門講座を開講	実施			
	6 公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等、陶芸知識の発信による基地化		■小中高校・特別支援学校・養護学校に対して、作陶活動に必要な情報や質問に対応し、研修や電話相談での陶芸知識発信に努める	実施			
			●公益的な作陶活動への情報発信	実施			
			□学童保育へのDM発送	1回/年			
	7 団体教室・出張教室の対応等、陶芸知識の発信による基地化		●陶芸知識の基地化 ■団体・出張教室での対応の難しいケース(作品の種類・重量・既存の電気炬の存在)	実施			
	8 施設の特徴としての登り窯の活用		■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施			
			■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施			
	9 (指定期間5年間に於いて)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討		■近隣地域との連携	実施			
			■陶芸祭での三溪園・本校市民公園・地域町内会との連携	実施			

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

5 情報提供及び広報	1	施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■ホームページ、SNSを活用して作陶講座等の情報を発信する	実施			【成果】  【課題】
			■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施			
			■陶芸祭チラシの作成、配布	実施			
			■紙媒体への記事掲載の推進	実施			
			■ホームページの講座案内年度切り替え	実施			
			□ホームページの新着情報の更新	1回以上/月			
	2	一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信	■セキュリティ及び情報ウェブアクセシビリティへの配慮	実施			
			■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施			
	3	Webサイトによる施設案内	■電話・メールでの陶芸に関する質問への対応	実施			
			■WEBサイトの活用	実施			
	4	各種媒体を使った広報	■新聞・タウン情報誌・陶芸関連書籍、フェイスブック、ヨコハマアートナビ、公園内に看板掲示による情報発信	実施			
	5	(指定期間5年間において)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭の情報を通して近隣地区及び全国規模での知名度を上げる	実施			
			■メディアの取材に対する積極的対応	実施			
	6	外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施			

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅱ 施設運営		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 作陶活動のための施設の提供	1	適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数357日、休館日9日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日)	開館日数 357日 休館日9日			【成果】  【課題】	【評価できる点】  【更なる取組を期待する点】
			■開館時間・休館日の周知(館内掲示・ホームページ)	実施				
			■開館時間9時～17時	実施				
	2	公園条例に基づいた利用料金の徴収	■成形室の動線、作業スペースの確保	実施				
			適切な利用料金の徴収 ■陶芸成形室半日500円	実施				
	3	新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	■焼成料100gまでごとに 100円	実施				
			□貸室稼働率(288日)	100%				
			□貸室目標利用者数	3,920人				
			□貸室目標利用料収入(焼成料含む)	4,200,000円				
2 施設利用の貸出業務	1	適切な受付業務	■新規・長期利用者がステップアップできるよう、使用できる釉薬・粘土を工夫する。	実施				
			■受付業務マニュアルの作成	実施				
			■利用者に対する利用手引き作成	実施				

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

3(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	1	アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施	実施			【成果】  【課題】
			■アンケートからの改善の実施	実施			
	2	(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内の整理整頓	実施			
			■ロッカールームスペースの活用の検討	実施			
			■不良在庫等の廃棄による収納スペースの確保	実施			
			■防災用品保管スペース拡張の検討	実施			
	4	施設見学等への対応	■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施			
			■利用者に支障のない「撮影」の受入	実施			
5 指定管理料金以外の収入確保に向けた取組	1	各種助成金、協賛金等の活用	■各種助成金、協賛金等の活用の検討	検討			【成果】  【課題】
6 組織的な施設運営	1	必要人材の配置と職能	■適切な運営組織体制と人材の配置 センター長1人、所長1人、副所長1人 事務員2人、講師11人、貸室アドバイザー6人・助手3人	実施			
			適切かつ効果的な勤務体制の確立 ■事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務	実施			
			■事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、事務部門、指導部門との兼任者を配置し、運営方針、課題、問題解決、連絡調整を行う	実施			
			■職務分担表により効率的な業務遂行	実施			
	2	主要人材の能力担保	■事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供し、全体的な知識のレベルアップを図る。	実施			
7 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用	1	陶芸道具類の販売・紹介(提案1)	■陶芸道具類の販売・紹介を実施する	実施			【成果】  【課題】
	2	アンケート・利用者・スタッフの意見の活用(提案2)	■アンケート・利用者・スタッフの意見の活用する	実施			
	3	施設増築(提案3)	■収納スペースの確保	実施			
8 その他施設運営に関する事項	1	休館日の届け出	■休館日(年末年始6日間、施設点検3日間)の届け出	実施			【成果】  【課題】
	2	許認可及び届け出	■許認可及び届け出	実施			
	3	目的外使用料の申請	■陶芸小道具、自動販売機使用料の申請	実施			
	4	財務状況の確認	■財務状況の確認	実施			
	5	名札の着用	■施設運営従事する職員の名札の着用	実施			
	6	個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故のないように努める	実施			
			■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	実施			
			■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する	実施			
			■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応	実施			
			□人権に関する職員研修年1回	1回/年			
			■苦情・要望について適切な対応と報告書の作成	実施			
			■管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施	実施			
			■横浜市内中小企業への優先発注	実施			
			■横浜市暴力団排除条例の遵守(横浜市暴力団排除条例の趣旨に則り、適正に管理運営を行う)	実施			

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 持続可能性を高める施設運営を行う(使命4)	1	日常的な施設建物・設備の点検	□施設建物目視点検	毎日			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
			□陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週1回				
	2	環境に優しい施設維持管理	□粘土・釉薬の再生(リサイクル)	月2回				
			□粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日				
			□排水溝・樹掃除	年2回				
			□登り窯(レブリカ)の適切な管理	2ヶ月1回				
			■高額修繕の回避	随時				
	3	効率的な運営の努力	□早めの計画	週1回				
			□業務マニュアルの見直しと改善	年1回				
2 保守管理業務	1	保守点検、備品管理、環境維持、長寿命化対応の実施	■管理標準チェックリストの記録	実施			【成果】 【課題】	
			□空調機器定期保守点検	2回/年				
			■給排水設備点検	実施				
			□電気設備点検	毎日				
			□ガス設備点検	毎日				
			□消防設備点検	2回/年				
			□窯業機械の機能点検	毎月				
			□窯業機械の保守点検	1回/年				
	2	小破修繕の取組	■見回り点検により、早めの修繕を行い、高額修繕に至らない様、適切な維持管理	実施				
			■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施				
	3	備品等の適切な管理	□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告する	1回/年				
			■計画的な窯の焼成スケジュール	実施				
			■釉薬、薬剤の適切な管理、点検	実施				
3 環境維持管理業務	1	施設の安全・安心・快適環境維持	□清掃業者委託による清掃	毎日			【成果】 【課題】	
			□定期清掃	2回/年				
	2	廃棄物の抑制と適切な処理	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する	実施				
			■産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	実施				
4 保安警備業務	1	事故防止体制・防犯の実施	■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施			【成果】 【課題】	
			■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施				
			■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施				
5 防火・防災等	1	日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■災害対策マニュアルの整備	実施			【成果】 【課題】	
			□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年				
			□AED操作研修	2回/年				
			■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施				
			□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年				
6 緊急時の対応	1	緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施			【成果】 【課題】	
7 感染症対策等衛生管理の徹底	1	感染症対策等衛生管理の実施	■新型コロナウイルス等感染症拡大防止マニュアル作成し実施する	実施				
			■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施				
			■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施				
8 その他施設管理に関する事項	1	施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□甲種防火管理者を1名選任する	1名			【成果】 【課題】	
			□電気主任技術者を外部に委託する	委託				



令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅳ 収支		指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造	1	魅力ある講座(企画)の開催	■興味を喚起する新規講座企画検討し、利用料増収を図る	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
			■期間限定の粘土・釉薬を導入し、利用料増収を図る	実施				
		2 寄贈品の活用	■不用になった陶芸書籍、古新聞、紙袋、タオルを寄贈頂き活用する	実施				
	3	助成金・協賛金・ボランティア活用	■様々な支援制度、ボランティアの協力を検討する	実施				
2 経費削減等効率的運営の努力	1	効率的な業務システムの構築	■業務マニュアルの改善	実施			【成果】 【課題】	
			■業務スケジュール作成	実施				
			■焼成スケジュール作成	実施				
	2	日常点検による小破修繕	■自前修繕による修繕経費の抑制	実施				
			■窯業機械の毎月の機能点検により高額修繕に備える	実施				
			■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握	実施				
	3	在庫管理の徹底	■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施				
			■粘土の予約販売を実施し、不良在庫を置かない	実施				
	4	再利用(リサイクル)	■粘土・釉薬の再利用を実施する、紙は裏紙を使用する	実施				
Ⅴ 各種計画書・報告書の作成及び業務評価		業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	1	日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	毎日			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
			□管理運営月報等をモニタリングにおいて報告	毎月				
	2	事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	1回/年				
	3	業務評価の実施	□自己評価	1回/年				
Ⅵ その他		選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応	1	個人情報保護についての取組	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故のないように努める	実施			【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】
			■マイナンバー 利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	実施				
			□職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施する	1回/年				
	2	情報公開についての取組	■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応	実施				
	3	人権尊重についての取組	□人権に関する職員研修年1回	1回/年				
	4	環境への配慮に関する取組	■施設的环境を維持し、快適な環境を保つため、清掃業務を適切に行う	実施				
			■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めるとともに、職員によるゴミ分別励行を行いゴミの資源化を促進する	実施				
			■横浜市が構築する「ルート回収」を活用し、可能限り資源化に努め、市役所ゴミゼロ運動に協力する	実施				
	5	障害者差別解消	■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する	実施				
	6	男女共同参画	■女性スタッフの意見を取り入れ、利用者ニーズの把握、運営企画のヒントを探る。スタッフの出産、子育てに応じて、働きやすい職場環境の充実を目指す	実施				
	7	市内中小企業優先発注についての取組	■横浜市内中小企業への優先発注	実施				
2 その他	1	保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入する	実施			【成果】 【課題】	
	2	関係法令等の順守	■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認	実施				
	3	市及び関係機関等との連絡調整	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施				

令和5年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	19,822,000		19,822,000		19,822,000	横浜市より
利用料金収入	4,200,000		4,200,000		4,200,000	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	15,709,200		15,709,200		15,709,200	自主事業講座料・自主事業焼成費、自由教室・貸室粘土代・釉薬代
雑入	725,000	0	725,000	0	725,000	
印刷代	5,000		5,000		5,000	コピー代金
自動販売機手数料	120,000		120,000		120,000	
駐車場利用料収入			0		0	
その他（ ）	600,000		600,000		600,000	受取利息・陶芸材料売上・古紙ルート収入・雑収入
収入合計	40,456,200	0	40,456,200	0	40,456,200	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	15,279,000	0	15,279,000	0	15,279,000	
給与・賃金	13,589,000		13,589,000		13,589,000	
社会保険料	1,250,000		1,250,000		1,250,000	
通勤手当	390,000		390,000		390,000	
健康診断費(福利厚生)	50,000		50,000		50,000	
勤労者福祉共済掛金	0		0		0	
退職給付引当金繰入額	0		0		0	
事務費	3,703,000	0	3,703,000	0	3,703,000	
旅費	20,000		20,000		20,000	
消耗品費	600,000		600,000		600,000	
会議賄い費	100,000		100,000		100,000	
印刷製本費	900,000		900,000		900,000	広告宣伝費・チラシ・パンフレット
通信費	350,000		350,000		350,000	電話料金・郵便料金
使用料及び賃借料	396,000	0	396,000	0	396,000	
横浜市への支払分	180,000		180,000		180,000	目的外使用料・ごみゼロルート回収費
その他	216,000		216,000		216,000	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000		500,000	ロッカー・パソコン・事務用品他
図書購入費	20,000		20,000		20,000	陶芸ライブラリー用蔵書
施設賠償責任保険	117,000		117,000		117,000	
職員等研修費	20,000		20,000		20,000	陶芸教材用デキス他
振込手数料	60,000		60,000		60,000	
リース料	350,000		350,000		350,000	電機炉・コピー機・電動ロクロ
手数料	270,000		270,000		270,000	ホームページ・メイン管理・会計ソフト・ホト料・ネットバンキング
地域協力費	0		0		0	
事業費	12,364,000	0	12,364,000	0	12,364,000	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費			0		0	
自主事業費	12,364,000		12,364,000		12,364,000	陶芸材料仕入れ・業務委託料
管理費	5,880,990	0	5,880,990	0	5,880,990	
光熱水費	2,112,000	0	2,112,000	0	2,112,000	
電気料金	1,522,000		1,522,000		1,522,000	三相・200V、単相・100V電気料金
ガス料金	190,000		190,000		190,000	プロパンガス・灯油窯用灯油代金
水道料金	400,000		400,000		400,000	
清掃費	2,200,000		2,200,000		2,200,000	
修繕費	500,000		500,000		500,000	備品・設備費
機械整備費	400,000		400,000		400,000	
設備保全費	668,990	0	668,990	0	668,990	
空調衛生設備保守	410,000		410,000		410,000	定期保守点検・室内送風機洗浄他
消防設備保守	88,000		88,000		88,000	
電気設備保守	150,000		150,000		150,000	電気炉他保守点検・電気設備取付・保守
害虫駆除清掃保守	11,000		11,000		11,000	
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費	9,990		9,990		9,990	松葉清掃・排水汚泥収納袋
共益費			0		0	必要に応じて支出
公租公課	1,400,010	0	1,400,010	0	1,400,010	
事業所税			0		0	事業所床面積と従業者数が標準に満たないため
消費税	1,400,000		1,400,000		1,400,000	実績に基づく試算
印紙税	0		0		0	
その他（ ）	10		10		10	受取利息からの納税分(国税)
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	1,829,200	0	1,829,200	0	1,829,200	
本部分	1,069,200		1,069,200		1,069,200	本社労務管理費等
当該施設分	760,000		760,000		760,000	そのほかの事務用品費
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	40,456,200	0	40,456,200	0	40,456,200	
差引	0	0	0	0	0	

自主事業費収入	15,709,200			0		講座料・焼成費・粘土代
自主事業費支出	12,364,000			0		業務委託費・陶芸材料仕入
自主事業収支	3,345,200			0		

管理許可・目的外使用許可収入	720,000			0		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出	180,000			0		目的外使用料・ゴミゼロルート回収費
管理許可・目的外使用許可収支	540,000			0		